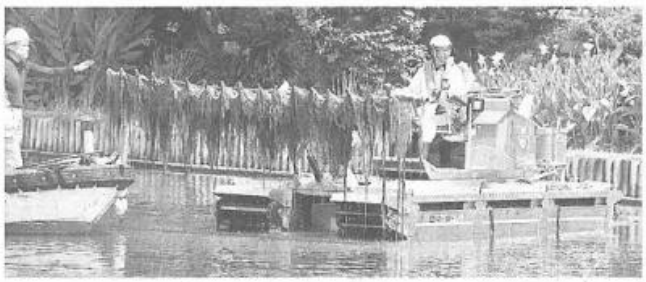
朝日新聞　2017年（平成29年）7月12日（水曜日）掲載

水草刈り 児童が体験

天神川 大量繁殖の現状学ぶ



松江市大正町の市立中央小学校4年生約60人が10日、学校横を流れる天神川の水草刈りを体験した。竹ざおを器用に操り、水草を次々とすくい上げて川の環境を学んだ。

身近な川に親しんでもらおうと、中海・宍道湖の環境保全に取り組む認定NPO法人「自然再生センター」が企画、総合学習の授業として取り組んだ。

宍道湖と大橋川をつなぐ天神川や松江城周辺の堀川では、少雨の影響などでツツイトモなどの藻や水草の大量繁殖が目立っている。

子どもたちはライフジャケットを着けて川岸に並び、長さ約3～4㍍の竹ざお2本をひもで束ねたものを川に差し入れ、絡みつけて次々と水草をすくい上げた。「よっこいしょ、わあ取れた」などとあちこちで歓声が上がった。木村歩さん(9)は「絡まるので取るのが難しかったけど、楽しかった」と笑顔だった。

4年の学年主任の狩野知久美教諭(56)は「身近な天神川の現状をまず知るのが狙い。思っていたより水がきれいなことなどがよく分かったと思う」と話した。

◇

大量の藻などを取り除くため、堀川では市河川課が専用の藻刈り船を導入した。長さ約4・7㍍、幅約2㍍の船で水面を進み、先端のくし状の器具で水草をすくい上げる。10日は北堀町付近で観光客も足を止める中、次々と刈り取った。13日まで出動予定という。（奥平真也）

㊤竹ざおで水草をすくい取る児童＝松江市大正町の天神川
㊦堀川に登場した藻刈り船＝松江市北堀町